

P-エラスチン

豚エラスチンペプチド

美容訴求・肌のハリに

エラスチンとは

エラスチンは、皮膚、血管、子宮など弾力性に富む組織に多く存在し、コラーゲンとともに主要な構成成分となっています。それらの組織において弾力性を与える役割を担っています。

P-エラスチンの特徴

食品に用いられる国産の豚血管（大動脈他）を原料として国内の工場では抽出・ペプチド化しています。エラスチン特有のアミノ酸（デスマシン・イソデスマシン）に着目し、それらを指標に抽出・ペプチド化することで、高純度化（デスマシン・イソデスマシンの規格化）に成功しています。

JHFA「エラスチン食品 品質規格基準」の原材料規格に準拠しております。

摂取目安量：100mg

●特許取得 [特許第 5276813 号]

- ・平均分子量が1000～3000である豚大動脈血管由来のエラスチンペプチド
- ・P-エラスチンを含む皮膚改善剤
- ・P-エラスチンとコラーゲン及び/又はコラーゲン分解ペプチドを含む皮膚改善剤

●安全性試験

単回過剰投与試験

最大投与量 6g/kg 体重の投与で異常なし (LD₅₀ > 6g/kg)

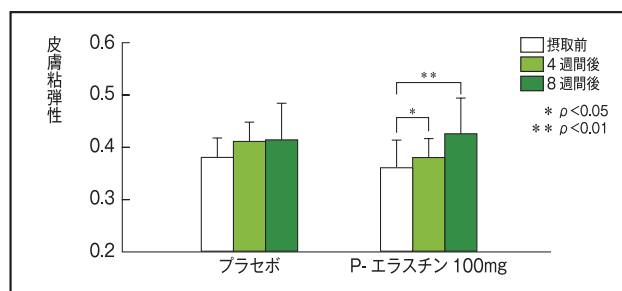
変異原性試験

細菌を用いる復帰突然変異試験 (Ames 試験) で変異原性なし

●皮膚粘弾性向上機能

成人男女13名にP-エラスチンを1日100mg、8週間摂取していただき、顔（頬）の皮膚粘弾性を測定しました。その結果、摂取前に比べて4週間後、8週間後では皮膚粘弾性が向上しました。対照群（成人男女13名）では、変化はありませんでした。

エラスチンペプチドの摂取による、頬の皮膚粘弾性（ハリや弾力性）向上



日本食品科学工学会誌, Vol.58, No.4, 159-163, 2011

●コラーゲン産生促進機能

ヒト線維芽細胞に添加すると、コラーゲンの産生を促進することを確認しています。

●エラスチン合成促進機能

マウスに投与すると、皮膚組織においてエラスチンの合成に関する遺伝子発現が亢進することを確認しています。

規格値

たんぱく質……………85%以上
水分……………8%以下
灰分……………10%以下
脂質……………0.5%以下
pH……………5.5～7.5

砒素……………1ppm以下
重金属……………20ppm以下
一般生菌数……………1000個/g以下
大腸菌群……………陰性
デスマシン・イソデスマシン……………0.8%以上

仕様

梱包形態

1kg×1袋
又は1kg×5袋

保管条件

常温（冷暗所）
高温多湿を避けてください。